様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 １１ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５０３９５

研究課題名（和文）アジア武術のエスノサイエンス身体論

研究課題名（英文）ethnoscience-body theory of asian martial arts

研究代表者
寒川　恒夫（Sogawa, Tsuneo）

早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授

研究者番号：７０１７９３７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,800,000円、（間接経費）　840,000円

研究成果の概要（和文）：アジアの武術を支えるエスノサイエンス身体論にあっては、身体は宇宙と有機的に連関した謂わば小宇宙と観念される。この身体論は、畢竟するところ、メソポタミアの古代文明に発して世界に伝播した大宇宙と小宇宙の対応観念に出自を遡り、アジア武術の身体論に共通するが、東アジアの漢字文化圏において得意な発達を見た。「事理一体」「道器一貫」と表現される宗教文化の中で、宇宙を秩序づける形而上的な理や道に通じる心が、形而下の事や器である技を統制すると教えるのである。ここから、武術の技をみごと発現させる殺しの心を、皮肉にも、仏教の不動智や道教の和、つまり悟りの心に求める日本の特異な武術身体論が生まれる。

研究成果の概要（英文）：The ethnoscience body theory of the Asian martial arts teaches us that the human connects with cosmos mysticismly. This notion began originally in the Mesopotamian old civilization's cosmology, and is common in Asia. However, in East Asia, especially in Japan, Buddhism and Taoism gave the martial arts a new and special form of the body theory where the religious enlightenment worked as a realizer of the killing techniques.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：武術　アジア　身体論　エスノサイエンス

１．研究開始当初の背景

エスノサイエンス（ethnoscience）はサイエンス（science）に対する語で、民族集団に古くから伝えられた独自な自然世界（人体を含む）の認識方法をいう。江戸時代までの日本人が鯨を魚と分類したのは、その例であり、近代化にともなってヨーロッパから進化論的動物・植物分類法を受容するまでは、世界的にエスノサイエンスがおこなわれていた。エスノサイエンスの研究分野は文化人類学が拓いたもので、植物分類と動物分類において研究成果を挙げているが、人体についてのエスノサイエンス研究も、近年、開始した。今日、スポーツはサイエンスに則ってトレーニングをするのが一般であるが、武術においてはエスノサイエンスに従うことが多く、このことが、武術にスポーツと異なる何かしら神秘的雰囲気を感じさせる一因となっている。本研究課題着想の背景には、武術が持つこうした特異な文化状況の認識がある。

２．研究の目的

武術のトレーニングでは敵を殺傷する技術の習得が第一義的に要請され、このことが武術エスノサイエンスをもっぱら身体論において展開する原因となっている。特徴的なのは、この身体論が心と体の関係認識を前提としたことである。本研究課題では、アジアにおこなわれる武術のエスノサイエンス身体論について、それぞれの具体相を明らかにした上で、地域差、そしてそれがどのような文化に由来するかを明らかにすることを目的としている。

３．研究の方法

本研究課題を遂行する方法として、アジアについてこれまでおこなわれたエスノサイエンスの一般論を確認した上で、東アジアについては、中国・台湾の太極拳、韓国のテッキョンと国仙道、日本の武道（江戸時代の流派武術が中心）、東南アジアについては、タイのムエタイ、インドネシアのシラット、インドについてはカラリパヤットを中心的対象とし、これらについて現地フィールドワークをおこない、その成果と歴史学的文献研究とを総合して考察をすすめる方法がとられた。

４．研究成果

アジア各地のそれぞれの武術を支えるエスノサイエンス身体論についての３年度間の研究が総合的に示唆するところは、以下のようである。

（1）アジアの武術を伝統的に支えた身体論は、19 世紀にアジアにもたらされた近代西洋医学のサイエンス身体論とは、その内容において大きく異なっている。

（2）エスノサイエンス身体論では、身体は個に閉じられた体系ではなく、宇宙に解放されてあり、宇宙と有機的に連関する、いわば小宇宙と観念される。

（3）東アジアの漢字文化圏では、エスノサイエンス身体論は、しばしば「事理一体」「道器一貫」と表現される宗教的文化の中で説かれる。

（4）この文化では、形而上的な理や道（森羅万象を基礎づけ秩序づける宇宙の原理）に通じる心が、体や器と表現される形而下的な技を統制すると考えられ、技の習得においては、その究極目標が技でなく心の修養におかれる。

（5）日本の江戸時代の武術家は、技をいかなる場面においても理想的に発現させるい

わば殺しの心を仏教の不動智や道教の和（すなわち自他を解消する心、執着のない心、悟りの心）に求める特異な武術エスノサイエンス身体論を展開する。

（6）東南アジアの武術にはこうした漢字文化圏の身体論は見られないが、身体が小宇宙であるという観念は共有される。

（7）東アジアと東南アジアに共通するエスノサイエンス身体論は、究極的には、メソポタミアの古代文明に発して東西に拡散した古代の大宇宙と小宇宙の対応観念に由来することが考えられる。

（8）一方、武術のエスノサイエンス身体論の形成については、その一部において、形成年代が比較的にごく新しいもので、そしてその形成動機が商業主義的な観光開発からする特異な例が、近年の現象として現れている。中国の北京にある紅劇場で上演される「カンフー伝奇」は、その代表である。このショーは少林寺拳法をテーマにしたものであるが、創案者の曹暁宇は、欧米人が中国に期待する伝統的なオリエンタリズム（サイードのいうオリエンタリズム）の分析から、ショーを非合理な神秘主義によって構成するセルフ・オリエンタリズム（上からする欧米人の蔑視と憐みの視線であるオリエンタリズムを、意図的に逆手にとって、これを増幅した形で提供することで経済的目的を達成する文化戦略）の下に、少林寺拳法に、それまでなかった仏教的な世界観と禅的な心の修養を付与させたのである。「カンフー伝奇」はたいそうな評判をとり、アメリカに常設館をもち、頻繁に世界公演をおこなっている。中国の数多くの伝統的武術は、主要民族である漢民族と 55 の少数民族とを問わず、これに刺激され、「カンフー伝奇」に倣った変容を創造しつつある。

（9）こうした現象はホブズボウムのいう伝統の創造と呼んでよいが、中国にとどまらず、ここ半世紀の間に、韓国のテッキョン、テコンドー、海東剣道などにも認められる。

（10）東アジアに限らず、東南アジアについても同様の現象が認められるかは、興味深い問題であり、その進行が予想されるものの、これを実証的に明らかにすることは将来の課題として残されている。

アジア武術の文化研究は、これまで、文献史料が比較的に豊富な日本の近世におこなわれた武術を中心に、国際的な広がりを見せている。本研究課題は、ややもすれば個別的歴史研究に終始したこれまでの武術文化研究に対し、刺激的で新しい文化人類学的な研究視点を提供することが期待される。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3 件）

①<u>寒川恒夫</u>、民族運動與自我東方主義、身体文化学報、査読有、Vol.13、2011、pp.1-9

〔学会発表〕（計　0 件）

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計　0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

該当なし

６．研究組織

(1)研究代表者

寒川恒夫（SOGAWA,Tsuneo）

早稲田大学スポーツ科学学術院・教授

研究者番号：70179373

(2)研究分担者

（　　0　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　0）

研究者番号：